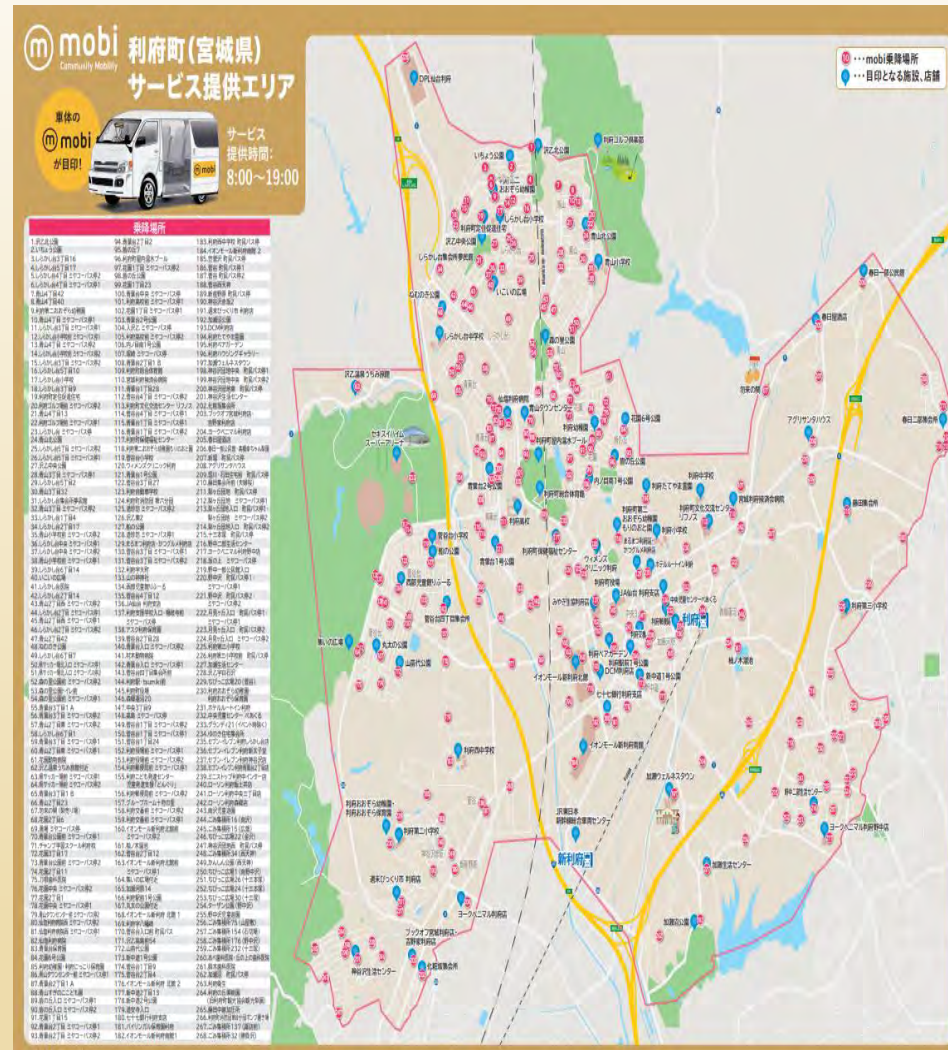


「利府町版mobiプロジェクト」による実証運行の開始

【AIオンデマンド型モビリティサービス「利府町版mobi」による実証運行の開始

- AIオンデマンド交通システム「mobi」
限定された運行エリア内（半径 2 km）に、仮想のバス停を設定し、利用者はスマホの専用アプリを利用して配車予約を行うことで利用ができる。なお、アプリを利用せずコールセンターへ電話し利用することも可能。
- 実証運行期間：令和 5 年 1 月 2 7 日～令和 8 年 3 月 3 1 日
- 運行時間：8 時から 1 9 時
- 料金：30 日間定額乗り放題 5,000 円（家族会員は 500 円）
ワンタイム利用 大人：300 円、子ども：150 円、
幼児：無料
回数券 6 回/1,500 円
- 仮想バス停：268カ所
- 運行車両：12 人乗りのハイエース車両（2 台）



【データの活用】
人流データの活用によるエリア設定と乗降データと利用傾向の詳細分析による本格運行の検証。

普段使っても

お仕事でも

街のみんなが使えろ!

街のみんなでシェア(相乗り)することで、お金も時間も有意義に活用できるまったく新しい移動サービス「mobi(モビ)」。
定額制でエリア内なら何度でも乗り降りが可能。マイカーのように気軽に使えます。
プロのドライバーが運転してくれるため、子どもからお年寄りまで誰でも安心して利用できます。

利府町×mobi実証実験について

既存の公共交通に加え、新しい移動サービス「利府町版mobi」の実証運行を通じ、町民の皆さんの外出機会の創出と免許返納後の対策を行うと同時に、高齢者、障がい者、子育て世代など、多くの皆さんが移動しやすい環境の実現を目指します。



子供の送り迎えに

慌ただしくなりがちな保育園や塾・習い事の送り迎えに。雨の日の送り迎えもラクに!



家族のお出かせに

荷物が多くなりがちな子連れ移動にも最適。ペーパークーパーの車内積み込みもOK!



家族で利用するとお得! 詳しくは料金プランをご覧ください!

友人との外食に

運転不要なのでお酒も楽しめる!!



通院に

体調不良時や定期的な通院にも便利。家族に送り迎えをお願いしなくてよいのも気楽なポイント!



毎日の通勤・通学に

ラッシュ時に密を回避して移動。移動時の身体的負担や心理的負担を軽減!



お買い物に

スーパーのお買い物に。お店や家の近くで乗り降りできるので、まとめ買いにも便利!



ご利用時の注意点

mobiは、エリア内の皆様で「シェア(共有)」をしていただく乗り物です。道路の混雑や、予約状況等により、乗降場所への到着が遅れたり、乗降の順番が入り替わる場合がございます。サービスへのご理解をお願いいたします。

●乗車予定時刻までに乗降場所までお越しください。乗車予定時刻を過ぎても乗降場所にいらしゃらない場合は、ご予約をキャンセルの上、お詫言いたします。モビの乗降はアプリ上で設定された乗降場所からお願いいたします。設定された乗降場所以外での乗降は法的違反となります。●交通状況により、乗降時刻が変更される場合があります。●お電話で予約することもできますが、お客様からのお問い合わせが集中し、お電話が繋がりにくい場合、お時間をおいて再度お電話をお願いいたします。●車内で飲食でのお支払いはお断りいたします。●車内での飲食は、お持ち込みされる場合はお断りいたします。●お持ち込みいただける手荷物(お断り)は標準運送約款に基づきます。【1】総重量12kg以内【2】総寸法0.027m以内【3】長さ1m以内【4】上記の条件内であっても液体状(飲み物、荷物の積み込み)ができない場合がございます。●車いすやペーパークーパーに乗ったままの乗車はできません。●予定変更等により、やむを得ずキャンセルをするごときは問題ございませんが、乗車しないことが決まったらすぐにごキャンセルいただくご協力ください。

mobiご利用方法 | アプリ利用の場合



右記QRコードからアプリをダウンロード

【会員登録方法】
①アプリを開きメールアドレスを登録。
②届いたメール本文記載のURLをクリックして会員登録の必要事項を入力



- 1 アプリを起動し、乗降場所を選択します。
マップすると地図の中心が乗降場所を選択できます。
- 2 乗降場所を選択した場合は「ここから乗る」、降車場所を選択した場合は「ここへ行く」を選択してください。
- 3 人数を選択し、お支払い方法を選択して「進む」をクリックします。
- 4 乗車予定時刻/降車予定時刻を確認し、「mobiを呼ぶ」をクリックします。
- 5 「予約が完了しました」の通知が当たります。

お電話でのご予約はこちらから

専用5bicaカスタマーサポート
050-2018-0107
電話予約の方法

- 1 音声ガイダンスに従って「1」を押してください
- 2 オペレーターと話す
・エリア(宮城県利府町)
・お名前
・電話番号
・ご利用人数
※大人・子ども・幼児の人数はそれぞれお伝えください
・乗降場所をお伝えください。
- 3 オペレーターから乗車予定時刻をお伝えします
乗車予定時刻までに乗降場所までお越しください。

料金プラン

①③は、クレジットカード決済・銀行振込み、②は、クレジットカード決済・降車時現金支払いが可能です。

1 定額乗り放題プラン
30日 5,000円
30日間 お試し無料

2 ワンタイムプラン 1回のご利用ごとに料金を支払い、mobiを利用
大人 300円/回 子ども 150円/回

3 回数券プラン
6回券 1,500円

利府町版mobiプロジェクト実証運行

街でシェア(相乗り)する
ちょい乗りサービス



2024年
12月から
運行エリア
拡大!

実証期間:
2025年3月31日まで



mobi(モビ)は徒歩や自転車、マイカーのちょい乗り代わる新しい乗り物です。

「行きたい」と思ったときに呼ばる



指定した場所にお迎え! 行きたい場所へ



お迎えや到着予定時間 車両位置がわかる



プロのドライバーが運転で安心



相乗りと最適ルートで 効率よく目的地へ



こんなところが便利!



お問い合わせはmobiカスタマーサポートまで

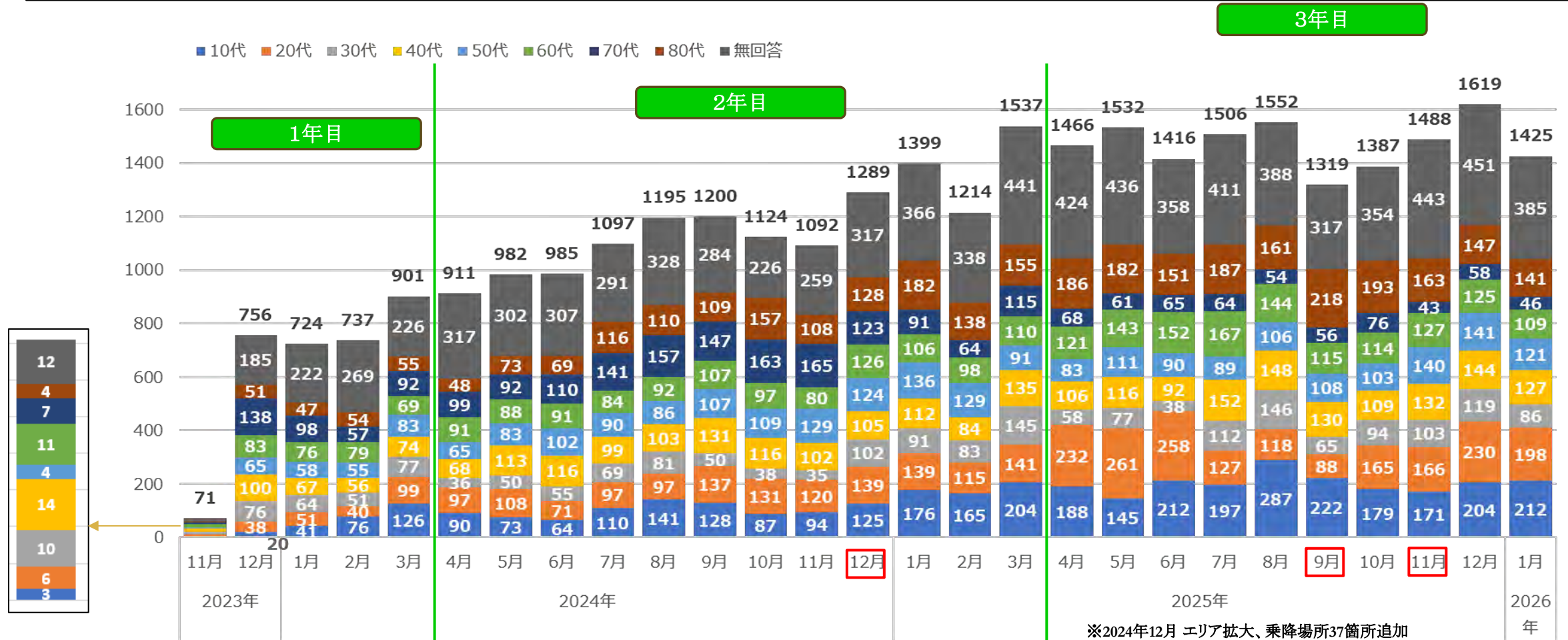
050-2018-0107

【営業時間】 9:00-19:00
【事業主体】利府町版mobiプロジェクト推進協議会 ☎022-767-2147
【事務局】利府町民生部生活環境課(公共交通係)
【サービス提供会社】Community Mobility株式会社
【運行会社】株式会社マイカーバス

<運行実績：利用人数（年代別）>

※集計期間：2023/11/27~2026/1/31

■ 利用者はエリア拡大や乗降ポイントを増やすことにより増加傾向にある。実証運行開始直後は60代以上の高齢者の利用割合が高かったが、現在では10代から80代までの幅広い年代の方が利用している。

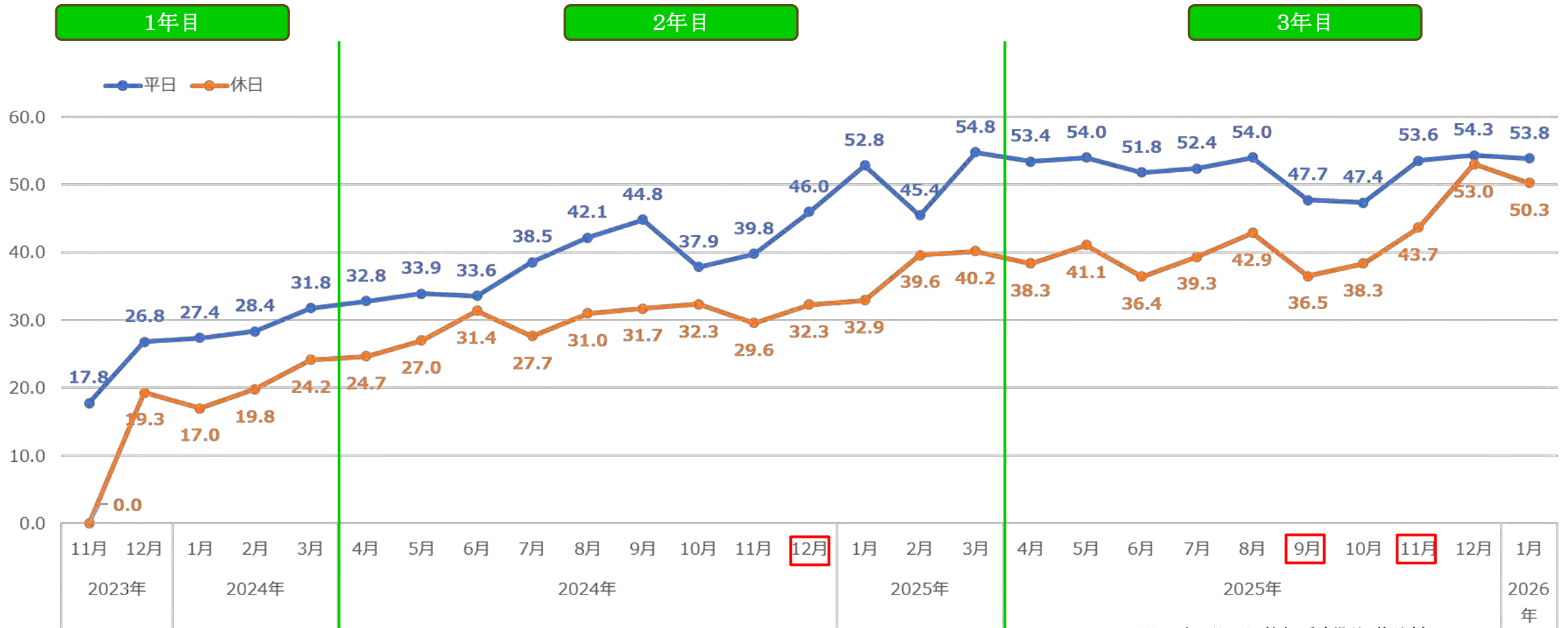


※2024年12月 エリア拡大、乗降場所37箇所追加
 ※2025年 9月 事前予約システム導入
 ※2025年11月 乗降場所34箇所追加

<運行実績：休日/平日の1日あたり利用人数>

※集計期間：2023/11/27~2026/1/31

- 1日あたりの利用人数は、休日、平日ともに年々増加傾向にある。
- 令和7年度の平日利用の平均は約52人、休日利用平均は約42人まで増加している。



※ 町民バス東部路線1日平均利用者数 約88人

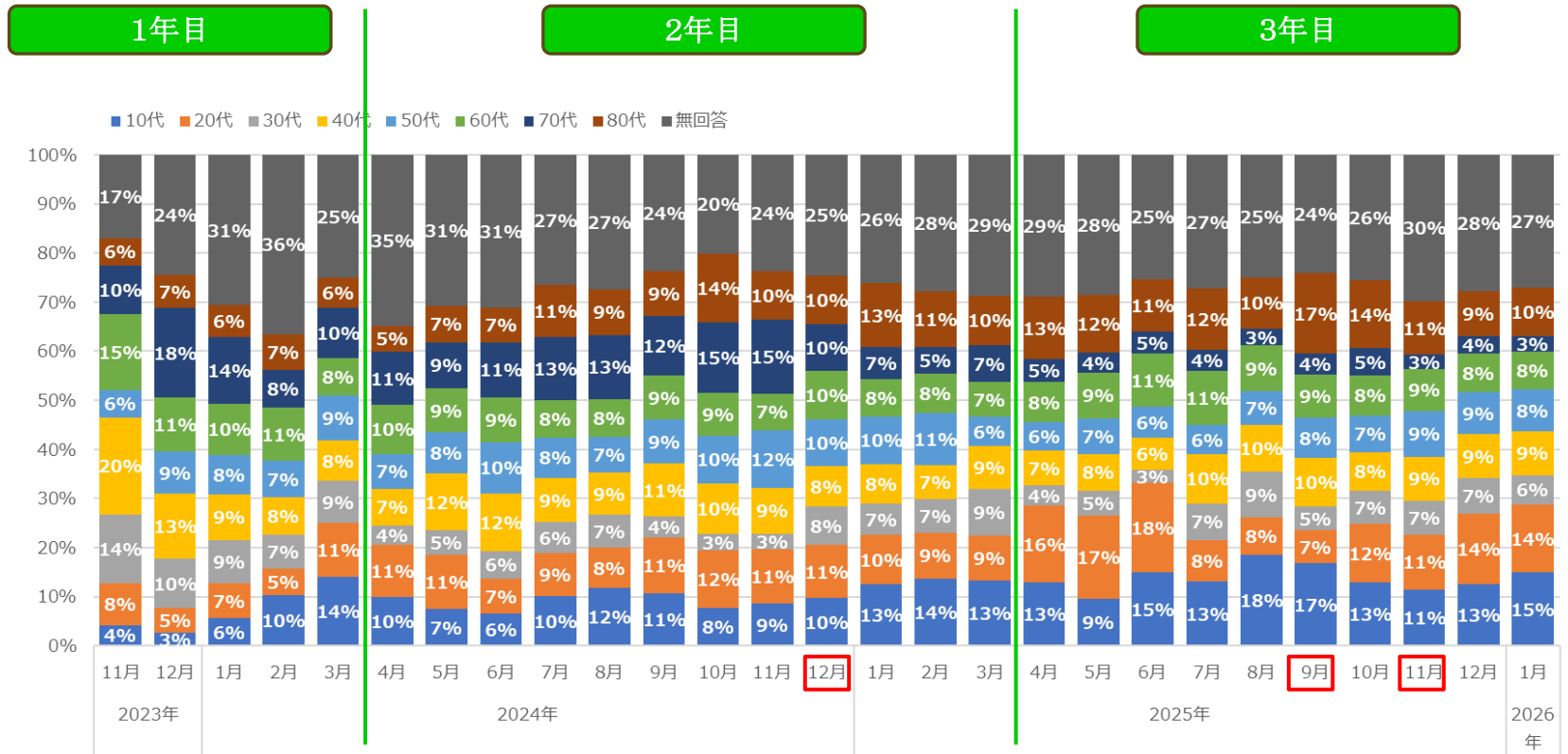
※2024年12月 エリア拡大、乗降場所37箇所追加
 ※2025年 9月 事前予約システム導入
 ※2025年11月 乗降場所34箇所追加

<運行実績：利用人数における年代別割合>

※集計期間：2023/11/27~2026/1/31

■ 幅広い年代の方にご利用いただいている。特に、80代、20代、10代の利用が増加傾向にある。

年代	1年目	2年目	3年目
無回答	26.6 %	27.3 %	26.9 %
80代	6.4 %	9.7 %	11.9 %
70代	12 %	10.7 %	4 %
60代	11 %	8.5 %	9 %
50代	7.8 %	9 %	7.3 %
40代	11.6 %	9.3 %	8.6 %
30代	9.8 %	5.8 %	6 %
20代	7.2 %	9.9 %	12.5 %
10代	7.4 %	10.4 %	13.7 %



※2024年12月 エリア拡大、乗降場所37箇所追加
 ※2025年 9月 事前予約システム導入
 ※2025年11月 乗降場所34箇所追加

<運行実績：相乗率>

※集計期間：2023/11/27~2026/1/31

■ 予約件数の増加とともに、相乗率も高くなっている。特にエリア拡大や乗降ポイントの増加に伴い、乗合も増加している。

・相乗率 = 相乗数 ÷ 予約数

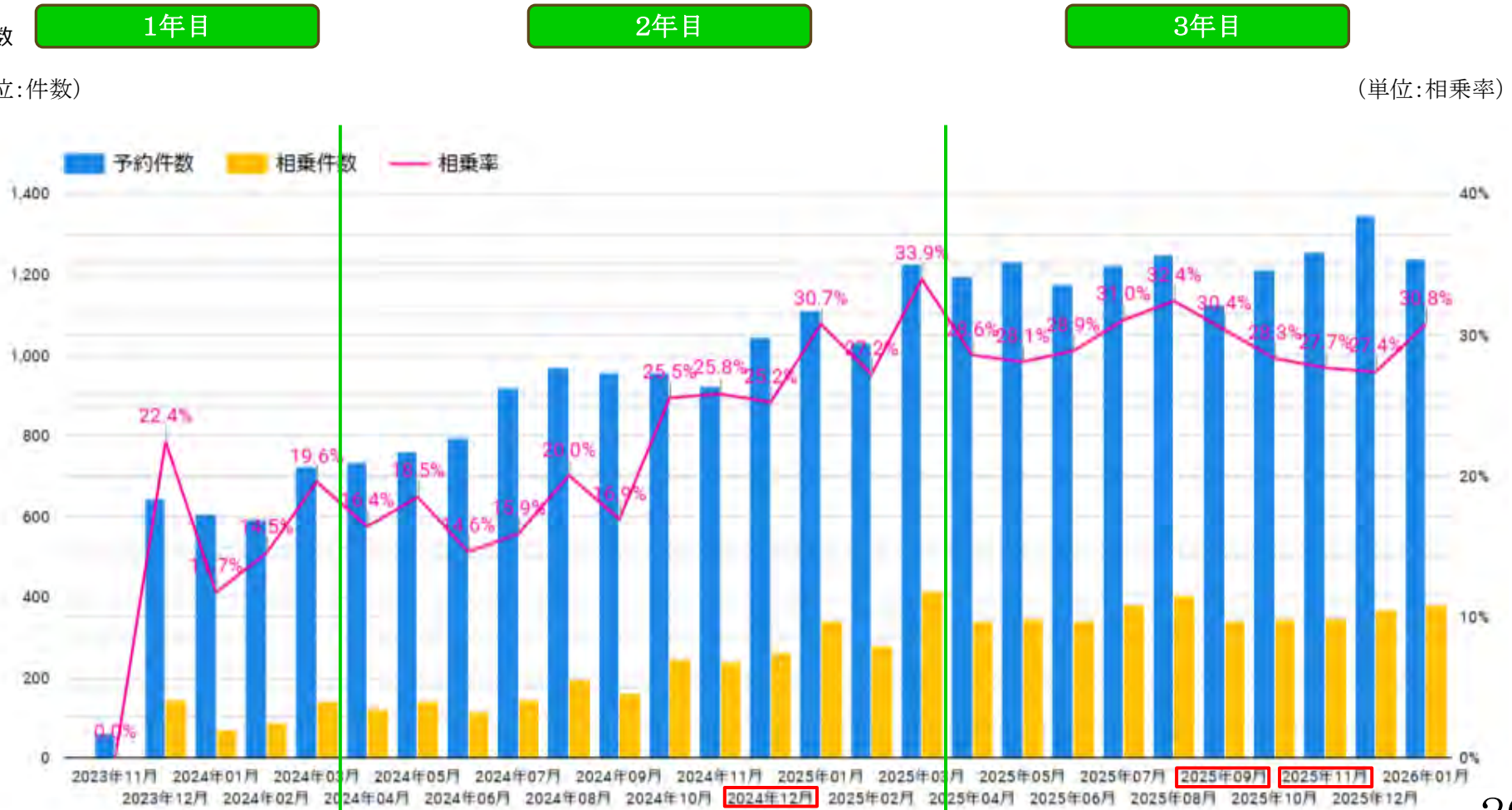
↳ 相乗数 = 全利用者の乗車回数のうち、相乗となった回数
(他のお客様と相席になった回数)

↳ 予約数 = 全利用者の予約数

(単位: 件数)

(単位: 相乗率)

・相乗率が高いと、効率よく運行できていると言える



※2024年12月 エリア拡大、乗降場所37箇所追加

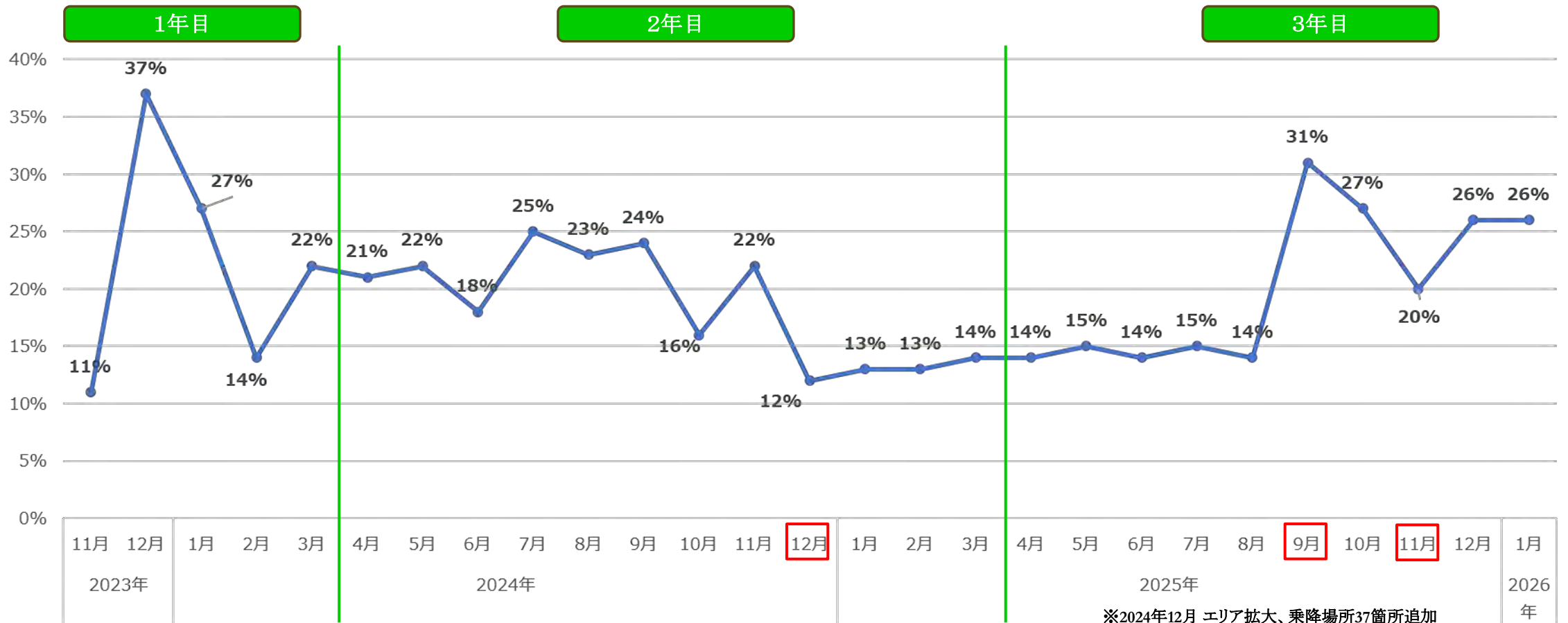
※2025年 9月 事前予約システム導入

※2025年11月 乗降場所34箇所追加

<運行実績：No offer率>

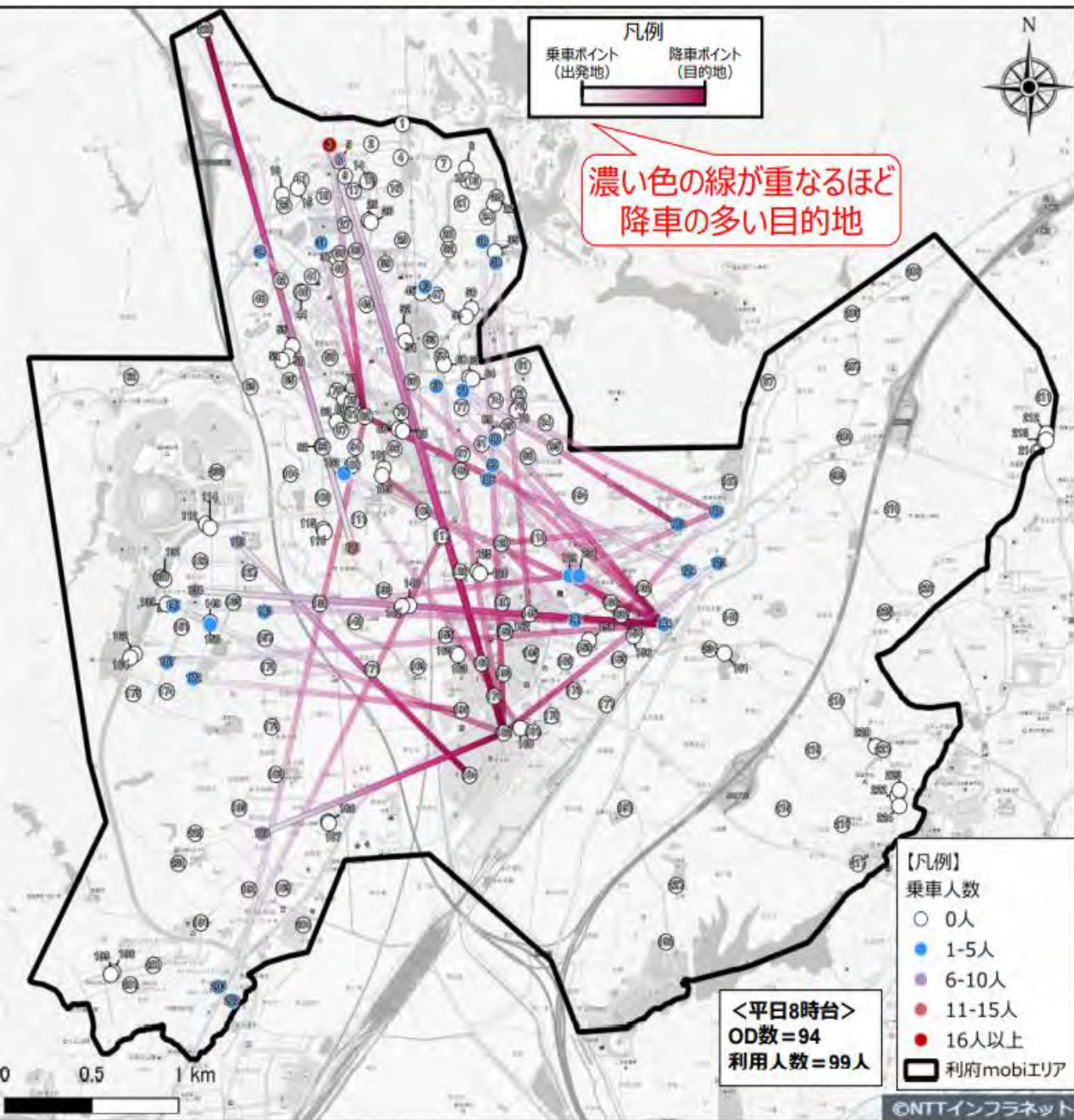
※集計期間：2023/11/27~2026/1/31

■ 運行開始直後はNo offer率が37%と高く、2年目では20%台に減少し、直近では10%台に落ち着いていたが、2025年9月において、事前予約システム導入の影響により、No offer率が上昇した。その後、運行シフトの見直しを図り、改善に取り組んでいる。

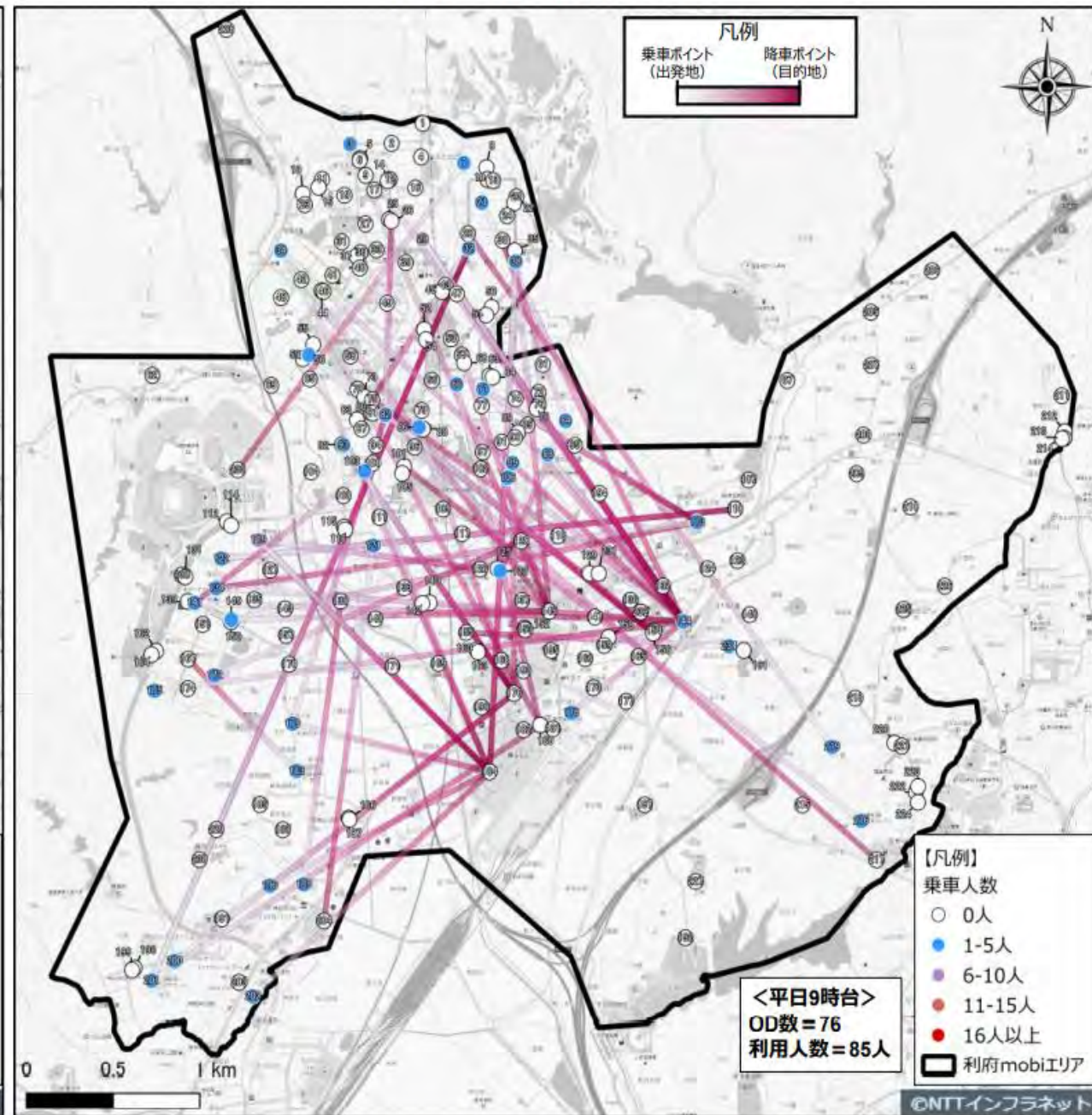


※2024年12月 エリア拡大、乗降場所37箇所追加
 ※2025年 9月 事前予約システム導入
 ※2025年11月 乗降場所34箇所追加

▼平日8時台 mobi利用OD



▼平日9時台 mobi利用OD

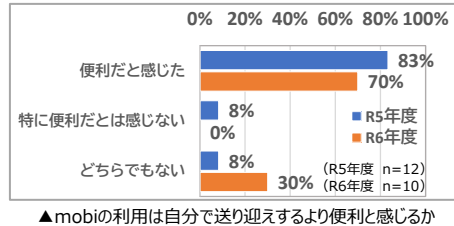
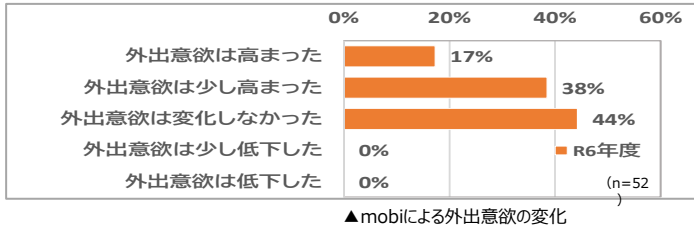
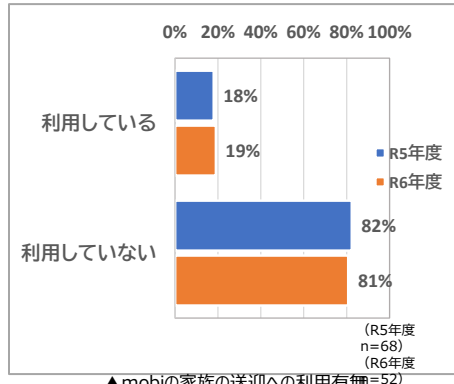
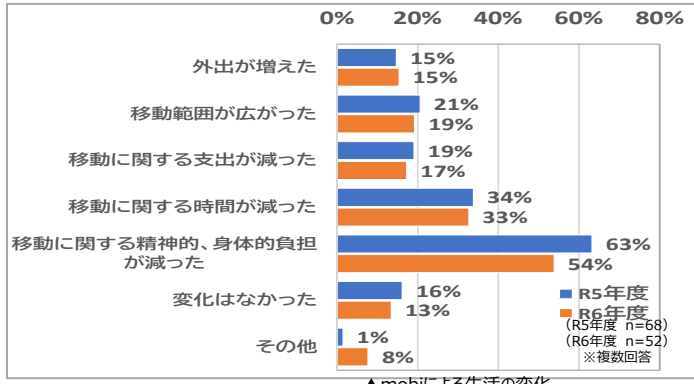


利府町版mobiプロジェクト 令和6年度効果検証結果の報告(1/2)

1. mobi利用者が感じた効果 (利用者アンケート)

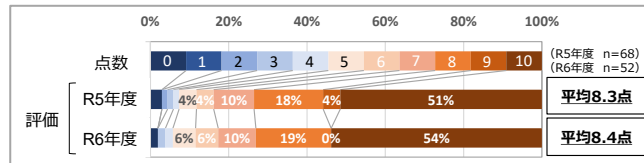
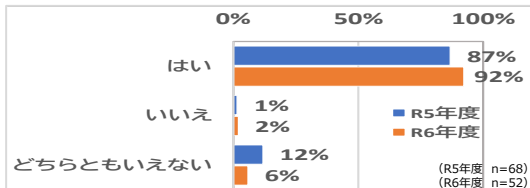
(1) mobiによる生活の変化

・mobiによって全体の約5割の方が「移動に関する精神的、身体的負担が減った」、約3割の方が「移動に関する時間が減った」、約2割の方が「移動範囲が広がった」、「移動に関する支出が減った」、「外出が増えた」と回答。「外出意欲が高まった」と回答した人は全体の半数以上を占めた。
 ⇒昨年度から継続して、町民の移動負担の軽減や移動範囲の拡大、外出機会の増加等につながっていることを確認。
 ・全体の約2割の方が、家族の送迎にmobiを利用。うち、7割の方が自分で送り迎えするより便利と回答。
 ⇒昨年度から継続して、子育てや介護等に伴う家族の送迎の負担軽減につながっていることを確認。

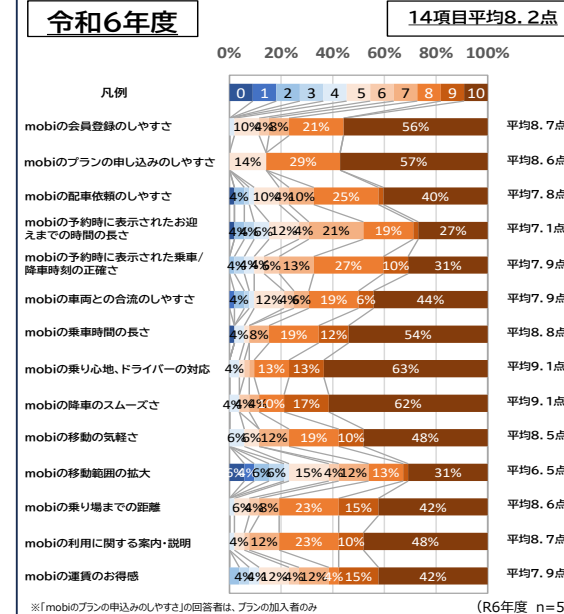
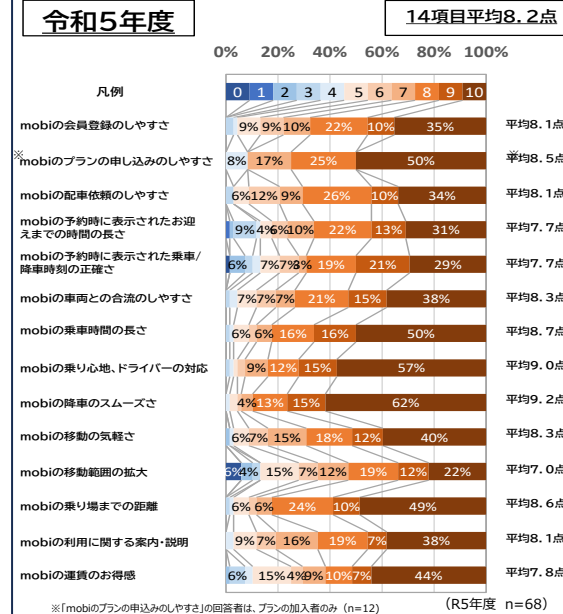


(2) 取組への賛否・満足度

・全体の約9割の方が今後もこのエリアでmobiが必要と回答(1年前よりやや上昇)。家族や友人にも勧めたいと考えている人が多数。
 ・mobiの運行に関する満足度(14項目)について、平均点は8.2点/10点となった。
 ⇒引き続き利用者からは概ね高い満足度が得られていることを確認。



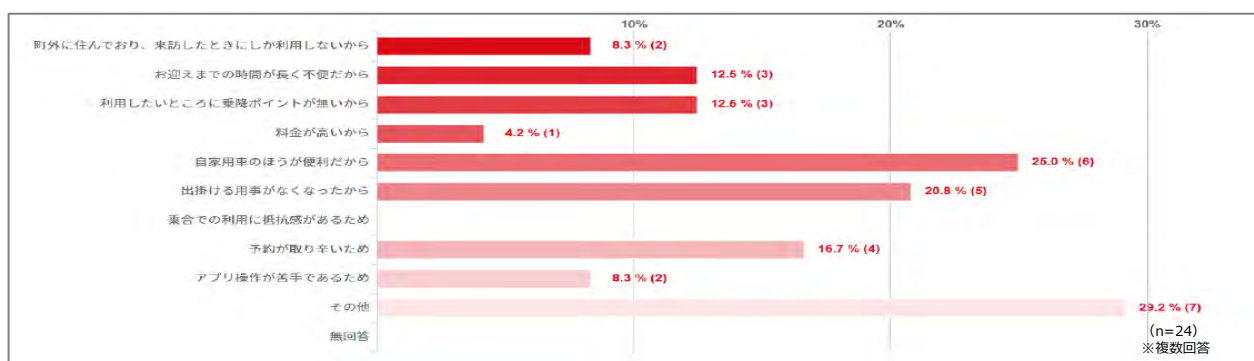
▲mobiのサービスを家族や友人等に勧めたいと思うか
0 (思わない) ~ 10 (思う)



▲mobiの満足度(10段階評価)

2. mobi利用者がmobiを利用しなくなった理由 (利用者アンケート)

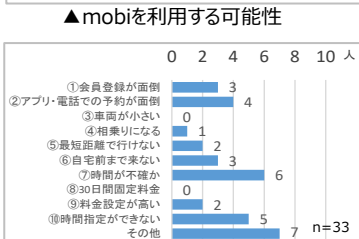
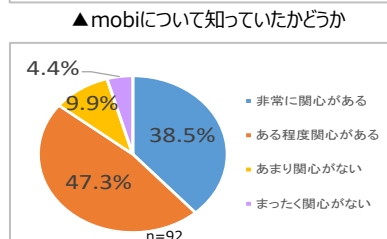
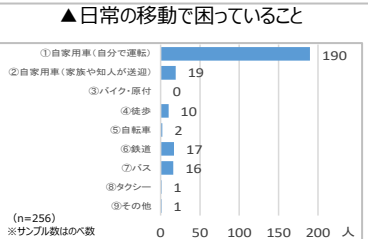
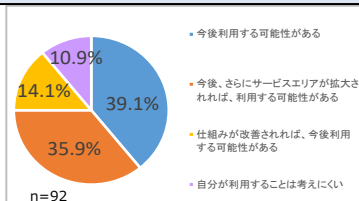
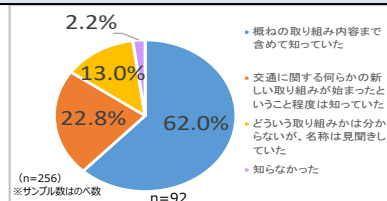
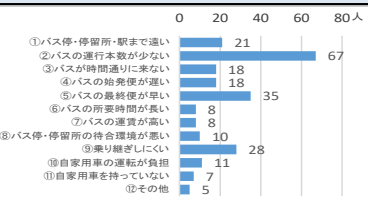
・mobiの会員登録を行ったが利用しなくなった方に対し、利用しなくなった理由を確認したところ、「自家用車の方が便利だから」が61人中6人と最も多く、次いで「出掛ける用事がなくなったから」が5人、「予約が取り辛いため」が4人、「お迎えまでの時間が長く不便だから」「利用したいところに乗降ポイントが無いから」が3人ずつであった。
 ⇒「自家用車の方が便利だから」が多いものの、「予約が取り辛いため」「お迎えまでの時間が長く不便だから」「利用したいところに乗降ポイントが無いから」といった理由もあり、今後のサービスの更なる改善により、より町民への定着を図ることができる可能性がある。



利府町版mobiプロジェクト 令和6年度効果検証結果の報告(2/2)

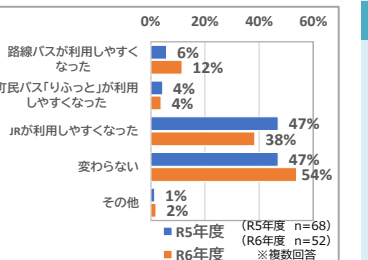
3. 現状でmobiを利用していない方への展開の可能性 (mobiを利用していない方へのアンケート)

- ・日常の移動で困っていることは、「**バスの運行本数が少ない**」「**バスの最終便が早い**」「**乗り継ぎにくい**」が多い。
- ・交通手段は「**自家用車(自分で運転)**」が占める割合が高い。
- ・**6割の方がmobiの取組内容を知っており、4割の方がmobiを今後利用する可能性がある**と回答。また、5割の方が、サービスエリアの拡大や仕組みの改善が行われれば利用する可能性があるとの回答。
- ・現状のmobiの仕組みで抵抗がある点としては「**時間が不確か**」「**時間指定ができない**」などが挙げられた。
 - ⇒mobiを利用していない方は、日常の公共交通での移動に不便を感じながら、自家用車を利用している人が多い。
 - ⇒mobiを利用していない方においてもmobiの認知度は高く、かつ今後利用する可能性があるとの回答している人も多いことから、今後の更なる取組により、mobiの利用者数を更に伸ばせる可能性がある。



4. 既存公共交通事業への影響・効果

- ・mobi利用者の約4割の方がJR、約1割の方が路線バスを利用しやすくなったと回答。
- ・既存の路線バスのうち、ミヤコーバス路線の利用者数は減少している(ヒアリングより)。その他のバス、タクシーは、現時点ではmobi運行に伴う乗降客数への大きな影響は見られなかった。
- ・町民バス運行者からは、**mobiとの連携を図り、乗り継ぎの利便性を向上させたい**という意見があった。
 - ⇒mobiが、JRや路線バスの利便性向上にも寄与していることを確認。
 - ⇒今後はmobiと**既存公共交通**とのさらなる連携を図ることで、それぞれの利用者数が増加する可能性がある。



バス事業者ヒアリング結果

- ・バスまでの待ち時間がある場合にmobiを利用するなど、**使い分けを行う利用者が増加しているように思う**。(町民バス)
- ・mobiエリア内の路線バス利用者が**全般的に減少している**。一方、公共交通利用全体の底上げになっていると感じる面もある。(ミヤコーバス)
- ・大きな影響・効果は受けていないと考える。(みちのりバス東北)
- ・バス内にmobiのパンフレットを配置したり、バス停がmobiのスポットであることを表示したりなどの取組を行い、**外出機会の創出を図りたい**。(町民バス)

タクシー事業者ヒアリング結果

- ・1年を通して前年比とあまり変化がないことから、**現時点では影響がないように思う**。
- ・今後mobiの運行台数が増えたと、タクシーの乗降客数へ影響が出ると考えられる。

5. 共創パートナーと連携した取組による効果と今後の展望

- ・共創パートナーと連携した取組として、今年度は昨年度に引き続き商業施設での説明会や、保健福祉センターや観光協会を通じた広報等を実施。また、エリア拡大に伴い、新たに保育所、観光スポット等に乗降ポイントを設置。
- ・各共創パートナーから、今後の取組について様々な意見を頂いた。
 - ⇒今後も各共創パートナーと協働し、mobiを活用して町民の暮らしが向上するための様々な取組を展開していきたい。

「買い物」×「交通」

- ・mobiを利用する買い物客を見かける頻度が増えた。
- ・年配の方がmobiを利用するにあたって、使い方を分かりやすく説明することが必要であると感じている。

「子育て」×「交通」

- ・子育て世代では、通勤、遊び、買い物等にmobiを利用したとの話を多く聞くようになった。
- ・利用者が待機しやすい場所として、**コンビニを乗降ポイントに追加**してはどうか。

「医療」「介護」×「交通」

- ・多くの高齢者が利用しているのを見る。mobiの実証運行により**高齢者の外出機会は増加した**と思う。
- ・町内会単位での説明会を開催し、町民への周知を図るのはどうか。

「健康」×「交通」

- ・保健福祉センターで健診を受けられる方のうち、今年度は**mobiを使用する方が多い**。
- ・福祉の部署で、妊婦さんの移動補助の予算を取り、**補助金等で乗車サービスを行う**ことは可能か。

「観光」「農業」×「交通」

- ・「小さな旅」などのツアーイベント時に10人～20人で利用したい。事前予約システムを実装してはどうか。
- ・観光パンフレットに記載している梨販売所に、乗降ポイントを設定してはどうか。

今年度の共創による取組の例

「買い物」×「交通」
mobiを利用して商業施設で買い物をした場合に特典を付与(イオンモール新利府南館)

「健康」×「交通」
高齢者の方を対象に、健康と公共交通利用の相乗的なメリットを説明

6. まとめ

指標1：【プロジェクトの浸透度合いの確認】：mobi利用者数 目標 1,500人/月 ⇒ 実績値 1,399人/月
 指標2：【持続可能性の確認】：収支率 目標 12% ⇒ 実績値 10.4% ※令和7年1月31日現在
 指標3：【町民の利便性実感の確認】：利用者満足度 目標 8.0点/10点 ⇒ 実績値 8.2点/10点 【達成】

<mobi利用者が感じている効果>

- ・mobiの運行が、昨年度から継続して**町民の移動範囲の拡大や外出機会の増加にも寄与している**ことを確認。
- ・利用者からは、概ね高い満足度が得られていることを確認(満足度調査の平均8.2点/10点)。

<現状でmobiを利用していない方への展開の可能性>

・現状でmobiを利用していない町民も、今後の更なる取組によりmobiの利用者を更に伸ばせる可能性がある。

<既存公共交通事業への影響・効果>

- ・mobiの運行が、**JRや路線バスの利便性向上に寄与している**ことを確認。
- ・路線バス事業者からは利用者数が減少しているとの見解を受けているが、公共交通利用全体の底上げに繋がっているという実感もあるため、継続的に詳細な分析を行う必要がある。

<共創パートナーと連携した取組による効果>

- ・買い物や子育てなどでmobiを利用する場面が見られるなど、mobiが町民の生活に根付くつつある。

<今後の取組>

- ・mobiの運行エリア拡大(R6.12.1~)からまだ期間が経過していないことや、路線バス利用者数などへの影響について報告を受けていることから、次年度も引き続き検証を行ったうえで、本格運行の可否を判断したい。
- ・引き続き各共創パートナーと協働し、mobiを活用して町民の暮らしが向上するための様々な取組を展開していきたい。

- ◆ 「現状の課題」を正確に把握することが重要
- ◆ 実証（モニタリング）、可視化することが重要
- ◆ データ分析能力を持つ職員の育成
- ◆ EBPMの目的は予算縮減のためだけではない
- ◆ 全ての事業が当てはまるわけではない
※例：町民バスは赤字だが、高齢者の足、環境、公共サービスの向上を上げるため。



ご静聴ありがとうございました

文化複合施設「リフノス」
令和3年7月開館